

## 有益な振動！

キソ・オーディオのHB-1小型スピーカーは、楽器のように振動することが許されます。そうすることによって、このスピーカーは、この上なく自然な音楽再生を実現するので

同胞によく思われないことが数多くありますがオーディオ愛好家の場合、それは他のコンポと比較して主にソース機器あるいは小型スピーカーに大金を投じることです。ましてや一見、薄いキャビネット壁で簡単に作られたような小型スピーカーの場合は良心的に解釈されたとしても懐疑的な視線を向けられることは必至です。従って、キソ・アコースティックのHB-1が気にはなっても13,800ユーロを払って購入することができないのです。それでは、購入したくなるような魅力とは一体、何なのでしょう。

この問いに対してキソ・アコースティックの創業者であるハラ・トオル氏は、「キソ・アコースティックは楽器製造技法を発端にしてスタートしたため、音響的に非常に魅惑的なスピーカーが出来上がりました」と事実を即した回答をしています。ここで、ハラ氏は多くのオーディオ機器を所有する正真正銘のオーディオファイルであることを知る必要があります(インタビュー記事参照)。そんなハラ氏は、彼と同じ居住地(サカシタ)に存在するギター・メーカーのタカミネがオンキョーのために楽器のように響くスピーカー・キャビネットを製造しているのを見逃しませんでした。そのコンセプトに興味を抱いたハラ氏は工場を訪問して、その時からキソ・アコースティックのプロジェクトがスタートすることになったのです。

しかしながら、このテーマがいかに複雑であるか既に最初の試みにおいて露見しました。それはキャビネットに適合するドライバー・ユニットとクロスオーバー・ネットワークを開発しなければならなかったことです。この点を考慮してのハラ氏の経験とコンピューター・プログラム計算による設計は困難を極めました。このため、古典的な箱型キャビネットよりも取り付けられたドライバー・ユニットに与える影響の大きな新型キャビネットは、数多くのプロトタイプを作り上げて改善が繰り返されました。

### キャビネットとドライバー・ユニットを一体化

長期にわたる試行錯誤を経て開発チームは、ピアレスの中低域ドライバーと大幅に改造したフォステックスのホーン型ツイーター(開口部および位相プラグに黒檀を使用したタカミネ製ホーンを採用)の組合せに可能性を見出しました。ハラ氏は非常に高価な部品によって構成されたネットワークのクロスオーバー周波数を5kHzに設定し、すべての楽器の基音は中低域ドライバーが再生し、音色を決める倍音はツイーターが受け持つようにしました。高域の再生周波数は高域ホーンの効果によって非常に均質に放射され、その結果として素晴らしく正確な音像を再現します。

キャビネット自体は2.5mmから3.5mm厚の薄いサイド・パネルとマホガニー材のリア・パネ

ルおよびどっしりと厚みのあるローズウッド製バッフルから成るギターのような構造をしています。キソ・アコースティックのスピーカーは、ベテランの楽器製造スタッフの手によるラインにおいて製造されるために高い完成度を誇ります。

### 木材によって異なる響き

標準仕様のマホガニー仕上げの他に、響きが微妙に異なるメイプルとハワイアン・コア仕上げが用意されているのも楽器製造技法を思い出させるものです。きれいに処理されたスピーカー・ケーブル(顧客の要望に応じて6mまでの長さ)が付属品に含まれていますが、このケーブルはスピーカーの内部配線にも使用されています。

そして、このケーブルはステレオ・プレイ誌の試聴室でも小さめの居間においても最初にできる比較試聴としても利用できます。試聴ではキソ・アコースティックのケーブルが音質的に有利となり、そのどこまでも均質な響きはリファレンス・ケーブルとの比較においてさえ解像度の劣化をほとんど感じさせませんでした。

驚くべきことは華奢なHB-1が40平米のステレオ・プレイ誌の試聴室において著しい音量と低域の量感を伴って鳴り響いたことです。スピーカーは小さくとも、その響きは小型スピーカーを感じさせないものです。当然ながら深々とした重低音は難しく最低域のオクターブは再生されませんが、その代わり再生される低音域はクリアな輪郭を描き、非常にスピード感のあるものです。大編成のオーケストラもびっくりするほど当たり前のように鳴り響きます。

その上、このキソ・アコースティックのスピーカーは、より高価でこの点において卓越したマジコV3(6/08)のようなスピーカーでさえ十分に再現できなかった個々の楽器の音響的な特質を複雑なパッセージにおいても明確に描き出すという驚くべき能力を備えています。

もうひとつの魅力は、リスニング・ルームを魔法のようにスタジオやコンサート・ホールに変えてしまうHB-1の広々としたサウンド・ステージです。このためには、聴取位置から1mくらい前方に2等辺三角形ができるように角度をつけてHB-1をセッティングすることをお勧めします。これによって個々の楽器がピン・ポイントで定位するだけでなく、周波数特性が完全にフラットになります(測定値を参照)。

テストを行った人たちがこの特性に感心するまもなく、それに加えて音楽の違いを描き分ける能力というHB-1の決定的な特徴が明らかになりました。小さなキソ・アコースティックのスピーカーは、大きなリファレンス・スピーカーよりも明確に接続された機器の音の違いを描写します。さらに、中程度の質の録音からさえも多くの音楽的ニュアンスを引き出すことができるため、レコード・コレクションを聴く度に新たな発見ができるようになります。

この一例がドニゼッティのライブ録音「ランメルモールのルチア(Cetra LO18)」です。レコードの音質があまり良くないにもかかわらず、HB-1はマリア・カラスの熱烈な歌唱とそれに劣らぬデ・ステファノの表現力、そしてミラノ・スカラ座の最高の演奏を指揮したヘルベルト・フォン・カラヤンを生き生きと再生します。

HB-1がこのような歴史的な録音だけに実力を発揮すると思うのはとんでもない間違いで、こ

のことはジャック・ジョンソンの「バナナ・パンケーキ」を聴くと納得がゆきます。彼の声もまた比類なく自然に響きわたり、このスピーカーがこのような音楽の再生にも同様に優れた能力を発揮することを証明しています。

ダリボール・ベリック(Dalibor Beric)

<P30 右上の囲み記事>

**ご存知ですか……**

キソはナゴヤの北側にある伝統豊かな地域で、その名前は木曾の急流に由来します。日本アルプスの境界に接し、その景観は非常に変化に富んでいます。

<P30 写真キャプチャー>

- 1 キャビネットの形状と薄い壁は、固有共振を音響的に目立たない領域に押しやる。
- 2 追加された支柱木は振動するキャビネットの共振特性をコントロールする。
- 3 キソ・アコースティックのバスレフ開口部には一般的な合成樹脂パイプを使用せず、手作業で仕上げたウッド材ダクトを投入。
- 4 キソ・アコースティックのキャビネットは、楽器と同じようにタカミネにおいて一つ一つ手作業で製造される。

<P31 写真キャプチャー>

**楽器製造技法**

- 1 キソ・アコースティック HB-1のローズウッド材バツフルは、ドライバー・ユニットが正確に動作するようにキャビネットの他の部分と比較して非常に厚みのあるしっかりしたものを使用。キャビネットはタカミネで製造されていてもギターのような特性ではなく、むしろ共振特性がスピーカーの再生音にプラスとなるように影響して音響的な妨げとならない設計。このことは試聴テストが示すように驚くほど良い成果として現れている。
- 2 タカミネのギターはブルース・スプリングスティーン、ニルス・ロフグレン、ジルバート・ジルあるいはエヴリル・ラヴィーンのようなミュージシャンが演奏している。タカミネはアーティストの希望に応じて楽器の響きを調音している。

<P32 タイトル見出し>

**「HB-1の目標は、小さくとも小型スピーカーを超えた鳴り方をするスピーカーを創り出すこと**

でした。」

<P32 左の囲み記事>

## ラボの測定結果

### 周波数およびインピーダンス

軸上(axal)

上方向10°(10°hoch)

横方向30°(30°seitl.)

インピーダンス・カーブ(Impedanzverlauf)

- 1 低域は持ち上がりがなく早めに減衰しているためHB-1は壁に近づけてセッティングできるが、壁から少し(0.5m)離すと最良の音場感が得られる。
- 2 高域のわずかな持ち上がりは軸上から反れるとなくなるため、聴取位置から1m~1.5mくらい前方に2等辺三角形ができるように大きく角度をつけてHB-1をセッティングすると良い結果が得られる。
- 3 インピーダンス・カーブはクリティカルではなく、管球アンプとの相性も良い。バスレフ・キャビネットに典型的な2つの隆起が低域に見られる。

<P32 右の囲み記事>

## インタビュー

ハラ・トオル

キソ・アコースティック社長

**ステレオプレイ誌**: オーディオの“ウィルスに冒された”のはいつですか？

**ハラ・トオル**: 小学校5年生のときでしたから、大体50年ほど前です。蓄音機や当時のモダンなシステムを持っていた父親から“感染”したのです。

**ステレオプレイ誌**: 自分自身で購入した最初のオーディオ機器は何ですか？

**ハラ・トオル**: 15歳のときに日本以外ではケンウッドとして知られていたトリオのシステム・ステレオ装置を買いました。

**ステレオプレイ誌**: お気に入りのオーディオ機器は何ですか？

**ハラ・トオル**: 50年にわたってオーディオを続けてきて幸いにも十分な場所もありますので、お気に入りの機器がいくつか保有しています・・・一番のお気に入りやはり私とこれまで人生を共にしてきたヒズ・マスターズ・ボイスの蓄音機でしょう。私が何年もかけて進めてきたプ

プロジェクトは7ウェイ・スピーカーです。これはJBLのオリンパスをベースにしたものですが、ドライバー・ユニットもネットワークもすべて変更されていてオリジナルはキャビネットだけです。このようなマルチ・チャンネルのスピーカーをいかにして均質に鳴らすかは大きな挑戦でした。他に同様に改造したウィルソン・オーディオのグラント・スラム X1をFM2011パワーアンプでドライブしています。自分用に特別に仕上げた専用キャビネットに収めたウェスタン・エレクトリックの伝説的なWE124パワーアンプとWE750アルミ・フルレンジ・ユニットは聴く人を幸せな気持ちにさせるような密度の濃い特異な音楽を表現するため、同様に手放すことができないものです。さらにチェロとマーク・レビンソンのパワーアンプ、アナログ・ターンテーブル、録音機器などがありますが、ここで報告するにはスペースが足りなくなるでしょう。

**ステレオプレイ誌:** これまでにないこのようなスピーカーを作ろうと考えたのはなぜですか？

**ハラ・トオル:** 重量が数百キロもあるスピーカーではなく、簡単に持ち運びができるようなハイエンド・スピーカーを作りたいと考えたのです。友人宅に持ち込めるような小さくて軽いスピーカーでありながら、際立った音質のスピーカーが欲しかったのです。

#### <P33 写真キャプチャー>

- 1 高価な空芯コイルおよびムンドルフ製コンデンサを使用した贅沢なクロスオーバー・ネットワークは台座の専用ボックスに組み込まれている。
- 2 HB-1に付属する銅線スピーカー・ケーブルは、キャビネットの内部配線にも使用されている。
- 3 台座には剛性の高いメープル材を使用。上部のスリットはバスレフ開口部。

#### <P33 タイトル見出し>

「HB-1は、人の声を張りのある緊張感を伴って表現します！」

#### <P33 右下の囲み記事>

##### 総評

ダリボール・ベリック

特集記事編集長

キソ・アコースティックのHB-1がオールラウンドな能力を発揮するスピーカーでないことは、はっきりしています。その代わり、その価格を超えた著しく自然な音色と音楽を描き分ける能

力は、大音量再生時に必要となる音圧不足を忘れさせてしまうほど素晴らしいものです。音楽の細部に至るまで生々しく描写する感動的な再生音は、これまでに比類のないものです。

<P33 右端の囲み記事>

**キソ・アコースティック HB-1**

**13,800ユーロ(定価)**

代理店:ファスト・オーディオ、シュトゥットガルト

TEL. 0711/4808888

[www.fastaudio.com](http://www.fastaudio.com)

[www.kisoacoustic.com](http://www.kisoacoustic.com)

海外の代理店はインターネット参照

---

**外形寸法:**14.8(W)x32(H)x22.1(D)cm

**重量:**5kg

---

**セッティングのヒント:**ある程度、壁から離す。40m<sup>2</sup> までの小から中くらの部屋に設置する。

**測定値**

**周波数およびインピーダンス特性**

1.7kHzの小さなピークと軸上のわずかなハイ上がり傾向を除いてフラット。

---

**音圧および歪み特性(85-100dB SPL)**

1.7kHzに歪みの盛り上がりがあり、高い音圧レベルでは低域の歪が増える。(響き成分)

**下限再生周波数:**71Hz(-3dB)/54Hz(-6dB)

**最大音圧レベル:**97dB

キソ・アコースティックのHB-1は音圧と低域のパワーを重視する人向けのスピーカーではないが、音楽愛好家はその豊かな表現力と音色の自然さに心が奪われるでしょう。

## ステレオプレイ誌のテスト判定

### 総合判定

良いー非常に良い

価格／性能ランク   ハイエンド